

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071501664		
法人名	公益財団法人 大牟田医療協会		
事業所名	グループホーム ファミュー	ユニット名	
所在地	福岡県大牟田市野添町20番地19		
自己評価作成日	平成28年3月5日	評価結果市町村受理日	平成28年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成28年4月8日	評価確定日	平成28年4月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

公益財団法人が母体の事業所であり、医療連携において、訪問看護・訪問診療、南大牟田クリニック、南大牟田病院との報告・連絡・相談を、こまめに行っている。利用者の方々の生活支援において、少しのことで、できることは、行っていただき、必要とされる部分において、支援を行っている。年間行事では、地元中学校の生徒受け入れや、地域文化サークルのボランティア受け入れも、行っている。また、スタッフの資質向上の為に研修を、定期的に行い、地域包括支援センターによる虐待防止研修や理学療法士による移動・移乗講習会、認知症サポーター育成スタッフによる認知症の知識・支援技術の講習会を実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大牟田市にある“グループホームファミュー”はリビングや廊下の天井が高く、周囲の木々の緑も豊かで、鳥の鳴き声を聞きながらリハビリ通院に行かれている。心身状況やリハビリ等を含めて、医療関係者との打ち合わせが行われ、緊急時には24時間体制で管理者に連絡を取り、主治医や訪問看護師との連携もできている。管理者や主任を中心に職員個々の能力や特技を引き出すと共に、各種の内部研修も始めている。日々の生活では玄関やバルコニーでの日向ぼっこやホーム周辺の散歩の機会も作り、気分転換できる時間を増やしており、ご利用者が自主的に歩行訓練をされたり、「そろそろ洗濯物を取り込む時間よ」と言われ、洗濯物たたみ等もして下さっている。今後もアセスメントを充実させ、有する能力を引き出し、職員全員で介護計画(短期目標・実施等)に活かしていく予定である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中にある施設であり、地域住民とのかかわりを、考え対応している。	27年度は「ゆったり、ゆっくり、気ままに、健やかに、時間を過ごせる環境を目指して」という理念に変更し、「健やかに」の中には“心身機能の維持・向上”も含めている。日々の体操や生活リハビリ、玄関等での日向ぼっこを含め、職員の更なる取り組みが増えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事が企画されると、おむすび、味噌汁、お茶等の提供を、会場まで、運搬して協力している。	クリスマス会や敬老会の時に、フダス同好会やカラオケ同好会の方が盛り上げて下さった。複数の中学校の体験学習も受け入れ、一緒にゲーム等を楽しまれている。27年8月には、地域交流センターで地域住民向けに介護保険制度の説明をさせて頂いた。	ご利用者が子ども達との触れ合いを喜ばれる事から、今後は地域の保育園や幼稚園、小学生等の子ども達との交流方法を検討していく予定である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人情ネットワークに参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	医療の対応は、主治医による、直接の説明が、良くわかる。	年に6回、隣接する交流センターで行っている。毎月の取り組みや防災訓練の内容、外部評価結果等の報告も行われ、「外出支援」の更なる取り組みの報告も行われた。	現在19時から開催しているが、今後は家族の方等が参加しやすい時間をアンケートすると共に、「身体拘束」等を含めた勉強会を企画し、より多くの方に参加して頂ける方法を検討していく予定である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度の変更時、対応のしかたについて、問い合わせ実施。	管理者が市役所を訪問し、「マイナンバーの取り扱い」「介護保険負担割合証」等の不明点を相談しており、適宜アドバイスを頂いている。管理者がケアマネ連絡協議会主催の研修会準備等に関わり、市の担当者と一緒に活動している。安心介護相談員も訪問(月2回)して下さっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、新聞切り抜きを、読みあわせている。	感情が不安定な時は原因を把握し、ご本人の思いを聴くようにしている。お好きな話題を取り入れたり、一緒に散歩をしている。主治医や家族との情報交換も行い、家族と一緒に心の支援を行うように努めている。他施設の虐待事例等の新聞を切り抜き、職員と共有している。	今後も更に身体拘束に関する勉強会を職員同士で行っていきたくと考えている。ご利用者個々のアセスメントを丁寧に行い、身体拘束廃止に向けた取り組みを行う予定である。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止の為、研修会を実施している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の学習を行っている。	以前、制度を利用していた方がおられた。管理者が社会福祉士や精神保健福祉士等の資格を有しており、入居時に家族に制度の説明をしている。入居後も制度の必要性を確認し、制度利用の希望がある時は手続きの支援をしていく予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約と解約については、細かな説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の活用	毎月、「ファミユ便利ニ」を家族に渡している。家族の面会時は管理者等が日頃の状況を報告し、要望や悩み等を伺っている。本音で話して頂ける家族も多く、費用負担の相談等も受け、制度の説明をしている。家族交流会では「お菓子作り」を楽しまれた。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日常意見を聞いている。法人幹部は、個別に、意見を聞いている。	日々の業務の中で職員同士の意見交換を行うと共に、申し送りノートや日誌も活用している。管理者がケア内容を絵にしたり、写真を撮り、職員全員で共有するように努めており、法人内の研修のあり方も検討し、年間計画を作成する等の改善が行われた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの勤務がしやすいよう、勤務希望や休みの相談に応じ、対応している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	スタッフは、20代、30代、50代、60代と幅広く、採用。	面接時は、優しさと共に、「はい」と素直に言える方等を大切に採用している。職員からの紹介で就職する方が増えており、料理上手、壁飾りが得意、リンパマッサージが得意など、職員個々の特技を発揮して頂いている。職員の離職がなく、希望休(有給)を取りやすい環境が作られている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権についての記事の読みあわせ。	管理者や主任は、職員が丁寧なケアを行っているかを確認している。「自分もいつか介護を受ける身になる」「自分がされたらどうか」等の視点を大切にすると共に、「できない所を手助けしている」と言う気持ちで接するように伝えている。地域包括主催の虐待防止研修にも参加している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ一人ひとりの技術・知識の違いがあり、研修を受ける機会をつくっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、スーパービジョン・ケアマネ研修部会にて、他事業者とのつながりを、持っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	聞き取りを、行い、継続して、要望につなげていく。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの聞き取り、要望に近づけるように支援していく。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされる支援は、聞き取りにて、対応。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフ・利用者間に、助け合いのつながりをもつ。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とスタッフ、ともに、共通認識、価値観にて、話を行っていく。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設訪問者の受け入れ。	ご利用者や家族の会話の中で、生活歴や昔のお仕事等を教えて頂いている。家族や知人の面会時は、ゆっくり寛げるようにしており、家族と一緒に馴染みの食事場所(ラーメン屋)や床屋、お寺、自宅に行かれる方もおられ、外出の準備をさせて頂いている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間のつながりができるよう、場づくりを行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者の家族が、呼び止めて、話をされ、安心して、その場を、離れる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いの聞き取り実施。	入居時は、居宅時代の介護支援専門員の情報を参考にすると共に、ご本人や家族との会話の中から生活歴等を把握し、センター方式(1枚)やアセスメントシートに記録している。会話が困難な方も表情や行動を観察し、思いを察するように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活に対する思いを、把握できるように、話や表情で、推察している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態把握につとめている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族と話をし、スタッフ間で、話をしている。	職員全員で心身状況の変化等を確認し、介護支援専門員が計画の原案を作成している。必要なケアと共に、家事手伝い(洗濯のため)等を盛り込み、実施内容は毎日チェックしている。	ご本人の能力(有する能力・できそうな能力・要望)等をアセスメント用紙に記録し、解決策の検討や介護計画に活かすと共に、職員全員でアセスメントや介護計画作りに参加し、短期目標も具体化していく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	観察記録・連絡ノートにて、記録。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時、その時で、対応策を考えて、対応する。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員とのつながり。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族・本人の思いをつなげている。	希望の医療機関に受診できる。通院(リハビリ通院)は管理者や看護師が行い、雨の時はカッパを着て隣接する病院の送迎(車いす利用)をしている。医師からの指示は管理者が丁寧に記録し、職員と共有しており、家族の要望(入院等)に関する話し合いも続けている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化・気づきを報告している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病棟担当者・相談員と、連絡を、行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の思い、利用者家族の思い、医師による心身の医療的必要度において、共通認識が、はかれれば、よい。	入居時にホームの方針を説明し、同意書を頂いている。医療ニーズが高くなった場合も、訪問診療や訪問看護を利用でき、主治医から病状や入院の必要性を家族に説明している。ご本人や家族の意向を確認し、入院ぎりぎりまで点滴を受ける方もおられ、「看取りにおける同意書」も作成しており、今後も意向確認を続けていく予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアル実施。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難方法は、定期の訓練にて、周知徹底している。	災害時は各居室のベランダに避難するが、27年度から窓のシャッターは閉めないルールに変更された。夜間想定で、ホーム中央の事務所からの出火も想定し、ユニット個々に職員1人で避難誘導する訓練も行われた。家族や民生委員、安心介護相談員も利用者役になって下さった。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的人権の尊重。	言葉遣いの指導を続けると共に、羞恥心にも配慮し、ドアを閉めておむつ交換するように努めている。理念にある“ゆったり”とした気持ちで対応できるよう、職員も日々感情コントロールを続けており、ご利用者の繰り返しの質問にも忍耐強く回答されている。	「言葉遣いも身体拘束である」ことを職員に伝えている。日頃の言動で気になる時は注意しているが、今後も職員個々に馴れ合いの言動になっていないか、語尾が強くなっていないか等の振り返りをしていく予定である。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの話しかけ、希望がだせるような支援。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位の支援。入浴日変更希望や食事場所の希望等。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に沿って、更衣できるよう支援。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなるよう、食べやすさを考慮している。	献立は病院の管理栄養士が作ったものを参考にしている。季節の旬の食材を採り入れ、3食とも職員が手作りしている。ご利用者もフキの皮むきや豆むき、もやしのひげ取り等をして下さり、管理者と一緒に食事をされている。今後も咀嚼や嚥下に応じた食の形態に配慮する予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態を、状態に応じて変え、対応している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアチェック表で、確認。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄確認表にて、排泄リズムや傾向を把握して、誘導や声かけを行っている。	両ユニット共通の排泄チェック表を使用している。排泄が自立している方もおられ、必要な方は個別の誘導や排泄支援を行っている。布の下着の可能性も検討しているが、ご本人の意思で紙パンツを使用する方もおられ、ご利用者個々の心理(不安)にも配慮している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、運動等、促しを行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個別対応で、本人の希望にて、入浴。	湯船に浸かり、ゆっくり入浴されており、職員との会話を楽しまれている。ご利用者の状況に応じて、薬用石鹸や低刺激石鹸等を使用しており、できる所は洗って頂いている。入浴以外はトイレでの陰部洗浄やモーニングケアも続けている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠支援で、不眠の訴えがないか、確認して、医療機関とつなげている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援は、確実に服薬、できるようにしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯たたみ、塗り絵等、個々で、楽しまれている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族とともに、面会や外食等、希望にそって、準備している。	27年度は日向ぼっこの機会を増やしたり、外出の支援に取り組まれた。近くの“宮原抗(世界遺産)”にご利用者をお連れしたり、眼鏡橋の桜の花見やイオン等の外出も楽しまれた。家族と床屋や郵便局に行かれたり、日帰り温泉に行かれる方もおられる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、誰も所持されていない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや電話かけ等、支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気の入替えや玄関開放で、風の出入りを行う。	リビングと廊下の天井が吹き抜けで、天窓もあり、開放的な空間となっている。季節の花をテーブルに飾り、季節を感じて頂いている。職員が温湿度調整を行い、冬は床暖房や加湿器を使用している。毎日の掃除も徹底し、換気も行われ、ご利用者が拭き掃除等をして下さっている。今後も季節の飾りつけを増やす予定である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの寝そべりスタイルで、テレビ鑑賞。テーブル台での洗濯ものたたみ。みわたし良好な椅子から、様子観察される利用者。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族・本人の希望の環境整備になっている。	ベッドと洗面台は備え付けで、テレビや衣装ケース、時計等と共に、仏壇も置かれている。窓からは緑の木々を見る事ができ、西日対策でよしずやシャッター等を利用している。枕元に電灯を設置し、本を読まれる方もおられ、家族の写真も飾られている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は、バリアフリーとなっている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				